

学習障害（聴覚障害や識字障害）を有する学生に対する柔道整復学教育の学習効果向上、
国家試験合格率向上を目指して



【千葉キャンパス】健康医療スポーツ学部 柔道整復学科 教授

安田 秀喜 Yasuda Hideki

URL : [帝京平成大学 教員業績紹介ページ](#)



キーワード：柔道整復師国家試験合格率・入学前医療用語集・学習障害学生対策・
聴覚障害・識字障害

研究の概要

SDGs 目標 4：質の高い教育をみんなに

知的発達に遅れはないが、学習面（聞く・読む・話す・書く・推論すること）に困難のある学生は、授業に集中できないことや学習面でつまずくことが多く、学習障害と定義されています。内閣府令和5年度障害者白書によれば、学習障害を有する者の相対的な発出頻度は、約4～5%と報告されています。1クラスの学生数が40名であれば、学習障害を有する学生は2名存在することになります。

聴覚障害を有する学生や、識字障害を有する学生に対する教育経験から、その対応方法を検討してきました。聴覚障害を有する学生に対しては、UD（ユニバーサル・デザイン）トークアプリを使用して、音声データから文字を起こすことで対応し、教育をおこなうことが有効であると考えられます。識字障害を有する学生に対しては、入学前教育で使用する、医療関連基本用語集の語彙に、読み方と意味をできる限りわかりやすく説明する工夫をおこない、大学教育の早期段階でのつまずきを取り除くことを徹底しています。

さらに、国家試験問題で使用された、または、使用が予想される難読漢字を事前に学習するといった、傾向の分析や事前の予測も踏まえた教育を実施していきます。質の高い、学生一人一人の特性に応じた大学教育を、在学生全員に提供し、国家試験合格率の向上を目指しています。

このような教育現場での実践と、障害を有する学生のニーズに応じたツールの開発を結び付け、誰一人取り残さない教育の実現を探索しています。

実学へのつながり・産業界や自治体へのアピールポイント・協力可能事項・協力希望事項

聴覚障害学生に対するUDシステムのスマートグラス化（文字画面がスマートグラスに表示される）。識字障害学生に対する文字面の表面に下敷き型のアプリ画面で漢字のフリガナが表示されるシステムの開発を希望しています。

知的財産・論文・学術発表など（詳細は右上QRコードの教員紹介からご確認ください）

【論文等】

- ・「聴覚情報障害の症状を示す幼児に関する研究の動向と展望～雑音下聴取困難に焦点をあてて～」
- ・「聴き取り困難を主訴とする成人例の背景要因別の聴覚情報処理特性の検討」
- ・「聞き取り困難を訴える成人例に対する聴覚情報処理障害（APD）の適応」